

平成24年12月21日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成24年度NGO相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力NGOセンター
松尾沢子

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：2012年度 国際協力・NGO活動担い手育成事業「国際キャリアデザイン研修」
- 実施日時：平成24年12月8日（土）14時00分～21時00分
- 場所：福岡県早良市内ももちパレス
- 出張者氏名：松尾沢子

2. 実施内容

国際協力分野への仕事に関心のある市民受講者に対して、講義および交流会を通して国際協力分野への就職の実情を伝えるとともに、国際協力の必要性・意義等に関して市民への理解を求めることを目的とした複数回の講座で構成される本研修において、出張者は、参加者が具体的なキャリアデザインを行う前の事例紹介として講演と相談対応を行った。

講演部分では、自身が経てきた JICA、外務省出向、NGO でのインターン、スタッフという立場それぞれの国際協力における役割を紹介しつつ、参加者自身の考えやライフスタイルにあわせたキャリア形成をすることを奨励した。

講演後半では、九州国際大学国際協力学部副学部長でもあり、FUNN副代表でもある藤井大輔氏によるファシリテーションのもと、キャリアデザインの方法と追加的な質疑応答を行った。

- ・ 主な相談内容と感想（別添、主催者集計アンケート参照）
 - ・ 国際協力にかかわる仕事それぞれの意義ややりがいを知りたい。
 - ・ 仕事として選ぶ際に参考にできる判断基準を知りたい。
 - ・ フェアトレードに関心があるが、それを広める方策として NGO が注目しているものはなにか。

- ・ 現場に直接かかわるタイミングはいつ、どのように持つべきか。
- ・ いう組織全般、働く環境について知りたい。
- ・ N G Oに就職するために必要な実務経験について具体的に知りたい。

3. 所感

- ・ 参加者は社会人、大学生が半々であったが、すでに本研修で他の講師の講座に複数回継続して参加していることから、問題意識が明確で、出張者のキャリア形成に関する講演に対し、自身の立場に置き換えて理解を深めていただいていたように感じた。
- ・ 講演においては、出張者自身の経験談に限らず、相談員業務などを通じて接点を持つ国際協力に携わる人材・機関の視点を含めるように努めるとともに、当センターが有する調査結果なども共有したことは、理解促進につながったと思われる。
- ・ 参加者の熱意や国際協力分野に関する理解度は、関東地域で接する同様の対象層と特段の違いは感じなかった。特に福岡在住者にとっては、国連ハビタットやJICA九州の存在を通じ、国際機関や日本政府による国際協力が身近な存在であることが分かった。このような環境において、今回主催者FUNNが提供したように複数の機関の役割を理解した上で、個人の国際協力へのかかわり方を考える機会は、国際協力のアクターが協力しあう現状で人材交流の実績も進む中、有益であり好評であることがわかった。

地域で活動するN G Oが主催するこのような機会に、他地域の相談員団体や情報を持っているN G Oが積極的に参加し、国際協力に関心がある、N G O・国際協力分野で働きたいという一般市民の相談に共同して取り組むことは、本出張サービスの重要な役割と言える。



講演の様子



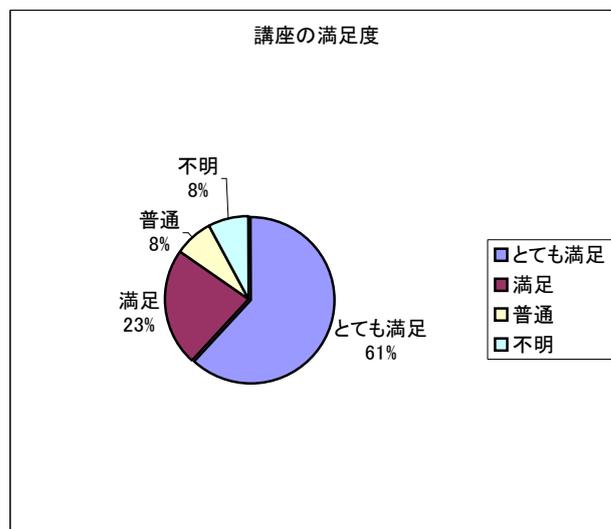
2012年12月8日(土) 国際キャリアデザイン研修 アンケート結果

○ 講座の満足度

*とても満足 8

(理由)

- ・自分の経験をもとに詳しく自分のビフォーとアフターを話していただいて、分かりやすかったです。
- ・松尾さんのキャリアの流れの中でいろいろな面からの視点が分かったため。
- ・キャリアからこれからのことまで様々な視点からお話が聞けたから。
- ・具体的なお話が聞けたため。
- ・質問する場があってよかったのと、フリートークができて良かったです。
- ・キャリアを考える上での優先順位が明確になった。
- ・国連, NGO, JANIC を経験してのお話はとても深く、貴重な時間を過ごせたからです。
- ・フリートークの時間がたいへん助かりました。
- ・今回の講師の方も経験豊かで本当にためになるセミナーでした。
- ・いろいろ質問もできてよかったから。



*満足 3

(理由)

- ・“キャリアプランの考え方”という講座の名前にふさわしい内容だったと思います。
- ・フリートークの時間がためになったから。
- ・実際に様々なセクターを経験した松尾さんの話を聞くことができとても参考になった。
- ・現地で働くことだけが全てではないことが分かった。

*普通 1

*不明 1

○ 最も印象に残った学び

- ・国際協力という分野は自分から動くことが大事だと実感しました
- ・自然体で自由に動ける国際協力の取り組み方が重要なんだと考えました
- ・自然な国際協力
- ・予備知識などより本人の熱意やガッツが大切なこと
- ・“つながり”が大切だということ
- ・To give your life on to give your rest of your life
- ・NGOが報道されるのはネガティブなときが多いこと

・今までずっと自分がどうしたい、どうなりたいかということで頭がいっぱいで、今日の松尾さんの話で相手にどう幸せになってもらいたいのかを具体的に考えたことがなかったなと思った。

- ・人をつくるということ
- ・人づくりが大切だということ
- ・様々な人との出会いで新しい道が開けるということ。
- ・現地で働かない国際協力へのアプローチの仕方
- ・JICA を辞められて NGO の世界に入っていく姿勢は尊敬に値すると思いました。
- ・松尾さんが「NGO で働くなんて偉いね」と言われて、なんか違うと思うとおっしゃっていましたが、それは私もずっと思っていたことで共感したし、私だけじゃないんだと思いました。
- ・最後に輪になっての松尾さんへの質問
- ・今あるベース（能力、経験）も重要視しなければならないこと。

平成 24 年 12 月 26 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成 24 年度 NGO 相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力 NGO センター 田島誠
(特活) アジア日本相互交流センター 吉田文

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

団体名：(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) / (特活) アジア日本相互交流センター(ICAN)

出張者： 田島誠(JANIC) / 吉田文(ICAN)

出張サービス企画名：「信州グローバルセミナー2012」NGO 相談員講師派遣

(JANIC)講座 F：国際協力 NGO の東日本大震災支援

(ICAN)講座 C：フィリピン・ミンダナオ島での平和構築活動

日時：2012 年 12 月 9 日（日）10:00～13:20（3:20 時間）

場所：独立行政法人国際協力機構 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

参加人数：(JANIC)23 名、(ICAN)26 名

2. 実施内容

信州グローバルセミナー2012 は、国際協力・国際交流・多文化共生について学び合う参加型のセミナーである。JANIC、ICAN は全 12 講座中、上記それぞれの講座を担当した。

【内容】

(JANIC) 東日本大震災支援における国際協力 NGO の活動と成果、教訓と、ネットワーク NGO である当該団体が果たした役割を紹介し、後半のグループ討議での議論を経て、将来起こりうる災害に備えて、今後の課題は何なのか、私たちに何ができるのかについて参加者全員で考えた。

(ICAN) NGO への就職やボランティアとしての関わりを持ちたいと考えている市民を対象に、フィリピン南部ミンダナオ島の紛争における歴史的背景や原因、そしてそこで行われている NGO の平和構築活動と成果を紹介した。参加者に当団体が製作した紛争地の子どもの経験が書かれた冊子の抜粋を読んでもらい、暴力が蔓延する現地の現状を肌で感じてもらった。

3. 所感及び効果等

(JANIC) 通常途上国での緊急災害における救援活動を行っている国際協力 NGO が、東日本大震災という未曾有の国内災害において即座に活動を開始し、救援活動、復興支援活動を行っていることを紹介することにより、国際協力 NGO の多彩な活動内容を参加者に伝えることができた。次の災害に備える、という関心事についても講義、グループ討議の形式を通して、より理論的に考える場を提供できた。

(ICAN) ミンダナオ島「和平枠組み合意」に関しての報道(2012年10月15日)があったことも影響してか、ミンダナオ島の紛争に関する認知度は比較的高かったと感じる。参加者からは、国レベルだけでなく、市民レベルでの平和構築活動の重要性を学んだという感想を頂き、NGOの役割や価値を伝えることができたと感じた。その他にも、平和構築に関わるボランティアや、今すぐできる身近な活動等についての質問を多く頂いた。このセミナーは、参加者が身近なところから行動に移すことを考える「きっかけ」になった。

以上



東日本大震災での NGO の活動について講義を聞く参加者。



紛争地に暮らす子どもの言葉を読みながら、子どもの気持ちになって考える参加者の様子。



グループワークの様子。

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 団体名

(特活) 関西国際交流団体協議会

出張者：林泰子

2. 企画名

「甲賀市国際交流協会 国際交流フェスタ 国（くに）ふえず 2012 in Koka」

(NGO相談員：相談対応サービス)

3. 実施日時

2012年12月2日（日）9時～17時

4. 場所

碧水ホール

〒528-0005 滋賀県甲賀市水口町水口 5671 番地

5. 実施内容

主催団体の甲賀市国際交流協会がかねてより国際化と多文化共生を目指して活動を展開してきているが、数ある取り組みの一つが国際交流フェスタ（通称「国（くに）ふえず」）である。来場者は国際協力分野のみならず、多文化共生、異文化理解、国際交流等に関心があり、自ら行動したいと考える方も多いため、国際協力のさらなる理解促進と行動に向けての助言を行うため、当協議会はNGO相談員を派遣した。

NGO相談員としては、本イベントに参加する学生や市民などの国際協力に対する関心の向上やキャリア形成のきっかけ作りを目的とするほか、国際協力およびボランティア、NGO等に関する情報提供と相談対応をすることを目指した。

当日は数多くの一般市民も来場した（詳細な人数は「6.」にて後述）。

本ブースでは、来場のきっかけ作りのために、ブース壁面に写真を多く貼り出した。これは、11月26～27日に実際されたNGO相談員連絡会議での良い事例を参考に用意した。また当協議会内情報センターに寄せられたNGO等のパンフレットを展示・配布した。来場者は必ずしも国際協力に関心が高いわけではなかったものの、パンフレットを手にとったり、写真を見たりされる様子を観察しながら、当方から話しかけるようにした。また私物として所持していたフェアトレードグッズを持参し、関心を持ってもらえるよう工夫した。

一方、国際協力をするための具体的助言を求められたり、将来的にフェアトレードをしたいがどうしたらいいかという相談や、国内での多文化共生に関する話題が出たりと、関心の高い来場者もあり、適宜情報提供した。

その他留意したこととしては、ただ単なるNGOの説明ではなく、国際協力や援助全体の中に位置づけ、わかることはNGOに限らず、臨機応変に説明した。

6. 集客人員

(1) 参加者

<全体>

来場者数：約 800 名

ブース出展数：24 ブース

<NGO相談員ブース> 個別相談対応：合計 56 名

その他チラシ・パンフレットのみ受領の来場者多数。

(2) 相談内容

*殆どの参加者に対し、複数の説明を行ったため、本欄総合計は上記対応数とは一致していません。

①NPO/NGOの活動について…25 件

②ボランティアについて… 2 件

③インターン・就職について…2 件

⑤スタディーツアーについて…1 件

⑥フェアトレードについて… 30 件

⑦開発教育について… 0 件

⑧外国事情… 2 件

⑨ODA政策一般… 2 件

⑩国際交流について… 2 件

(3) 相談者区分

①学生 2 名

②社会人 4 名

③主婦 27 名

④高校生 3 名

⑤不明 20 名

7. 所感及び効果

1) 導入・きっかけづくり

11月26～27日に実施された第2回NGO相談員連絡会議に出席した職員からのフィードバックを受け、集客向上のために写真やポスターをブースの壁面に掲示し、手元にあったNGOのパンフレットを掲示・配布した。また小職自身が以前より私物として所有しているフェアトレード商品を着用し、未開封の食品等を見本として展示した。「NGO相談員」として相談を待っているだけでは、一般来場者も話にくいかと思われるが、視覚に訴える写真や資料を用意し、会話が生まれるきっかけを工夫した。次回からはより積極的な働きかけを検討したい。

2) 関心の高さ

人数として多くは無かったものの、国際協力分野に関心の高い来場者があった。例えば以下の相談が挙げられる。

・日頃からペットボトルのキャップを集める等の活動をしているが、他にも高校生でも出来ることはないか（男子高校生）

- ・フェアトレードに関心があり自分でもやってみたいがどうしたらいいか (20代女性)
- ・ピアノを途上国に送りたいと思うがどうしたらいいか (20代女性)

会場となった甲賀市水口地域には滋賀県立水口高校が隣接しているが、同校には国際文化科があり、国際交流やグローバル課題に関心を持つ若者が輩出されているとのことである。

3) 来場者向けの企画

今回問う協議会が当該イベントに参加が決まったのが開催日直前であったため、相談業務以外の効果的な企画を検討調整することが出来なかった。来年は J I C A 国際協力推進員との連携を視野に入れ、早くから準備をしたい。

3) 効果

「5.」で前述したとおり、対応した 56 名の内、多くの来場者が「フェアトレード」や日本の国際協力の取り組みについての理解に乏しかったが、短時間ではあるもの情報提供することができた。広報効果としては一定の成果があったと思料する。



会場入り口



甲賀市副市長の挨拶



NGO 相談員の出展ブース

当協議会内情報センターに寄せられた NGO の資料や写真を展示・配布した。

また私物として購入したフェアトレード商品を、参考として展示した。



会場内様子（展示ブース、舞台）



会場内様子（飲食コーナー）

(了)

NGO相談員による出張サービス実施報告書

1. 団体名

(特活) 関西国際交流団体協議会

出張者：林泰子

2. 企画名

平成 24 年度第 3 回 NGO-JICA 協議会

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（会議参加）】

3. 実施日時

2012 年 12 月 19 日（水）14 時～17 時 20 分

4. 場所

JICA 関西

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 5-2

*但し、本会議は都内にある J I C A 東京で実施され、J I C A - N E T を通じて T V 会議に参加した。

5. 実施内容

〈協議事項〉

- ・「国内における NGO と JICA の連携」：地域連携および事例集の作成について
⇒四国より、地域おこしの一貫として、JICA 四国、国際交流協会、NGO、民間企業等が連携し、災害復興や国際協力に取り組んでいるという報告があった。
さらには、NGO 側参加者から、連携することが目的ではなく社会の課題に応えることがポイントではと、参加者全員に対して、リマインドがあった。

〈報告事項〉

- ・「JICA 草の根技術協力事業 10 年の振り返り分科会」について
⇒NGO 側より、制度改革につなげるアクションを盛り込むべきではと指摘があった。
- ・ JICA 草の根技術協力事業の精算業務の合理化および外部監査の導入について（経過報告）
⇒途上国ならではの状況が配慮される形となった。
- ・ JICA 草の根技術協力事業（支援型）見直しについて
- ・ H23 「開発教育／国際理解教育に係る連携強化のための分科会」フォローアップ
- ・ TICAD V へ向けた動きについて
⇒2013 年 5 月 31 日、6 月 1～3 日に実施。後日ブース展示を公募される。5 月 31 日実施予定のセミナーは、外務省を通じて申請できるところ。
5 月 11 日 12 日にはプレイベントとして横浜赤レンガ倉庫でアフリカンフェスタが開催される
- ・ ポスト MDGs 関連の動きについて

⇒NGO 側より以下の指摘あり、NGO として注意深く見守り提言することが重要との発言あり。

① MDG 策定の際には、「南の人」の意見が反映されていないため、「北のアジェンダ」になってしまったのは反省すべき点である。

② 現行の MDG は社会開発や Basic Human Needs に関連したものとなっているが、Post MDG は、「Green」「Inclusive」とは言われながらも成長重視の印象がある。

・ JICA の調達・契約について

⇒NGO 側より、従前寄り JICA の契約制度等が複数あってわかりづらい旨発言があったため、一覧に整理して提示いただいた。

・ ライツ・ベース・アプローチ勉強会報告

・ JICA ボランティアと NGO の連携

⇒①帰国した協力隊員に対して、国内でできる NGO 活動について、帰国時研修で講義。

②訓練所を NGO に開放したところ、現時点でシャプラニールから 1 名利用があった。語学訓練のみならず、同期の協力隊員との連携が形成され、現地着任後の活動に大きな効果があるのではと期待されている。なお、NGO 側負担費用は食費とシーツ代のみ。

6. 参加者

<外務省>1 名

<NGO 側>28 名

<JICA 側>26 名

* 事前配布参加者名簿による

7. その他

JICA や他関係者との連携事例は、当方でも参考となるため、今後の取り組みに生かしていきたい。

TICAD 実施時期には、関西でも何らかの形で盛り上げていきたい。

協力隊訓練所の NGO 開放は、当方関係団体に周知したいため、詳細は JICA に問い合わせ中（12 月 27 日時点では未回答）

（了）

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「第二回 NGO 相談員、JICA 推進員との意見交換会」
※出張形態：その他（意見交換会）
2. 出張者：田中十紀恵（(特活) 関西 NGO 協議会）
坂西卓郎（(公財) PHD 協会）
眞鍋瞳子（(特活) 関西国際交流団体協議会）
林泰子（同上）
3. 実施日時：2012 年 12 月 14 日（金）10:00～12:00
4. 場所：(特活) 関西国際交流団体協議会会議室
（大阪府大阪府中央区本町 1 丁目 4-12
エンゼルピックビル 2F）
5. 対象者：NGO 相談員所属 3 団体
近畿圏の JICA 国際協力推進員
JICA 担当職員
*以下 JICA 側参加者（敬称略）
 - ・JICA 関西市民参加協力課：山本将史
 - ・JICA 国際協力推進員
和歌山・野村実里
滋賀・上井香奈
大阪北・中西真実
京都・森万佐子
6. 実施報告：近畿地域における NGO 相談員と JICA 国際協力推進員の連携促進のために、8 月に実施した第 1 回に引き続き、第 2 回目の会議を行った。目的は全国 NGO 相談員会議でも度々取り上げられているように空白地域（相談員及び推進員の活動が及んでいない地域）での NGO 相談活動を充実させるための連携の促進であった。

議題としては「自己紹介」、「前回のふりかえり」、「第二回 NGO 相談員連絡会議の報告」、「第二回 NGO-JICA 協議会の報告」、「NGO 相談員 JICA 推進員連携事例発表」、「今後の連携について」、「今後の意見交換会の運営」であった。

以下、本日の重要課題であった 3 つの議題について報告する。

 - ・「NGO 相談員 JICA 推進員事例発表」

前回の意見交換会后、和歌山や滋賀での協働事例が生まれていることが報告された。また年度内には兵庫でも連携を行う予定で

ある。報告された事例は和歌山では「和歌山大学学園祭」、「ワールドハッピーフェスティバル」、滋賀では新旭で行われた「地域発見カフェ」等、イベント毎に良かった点と課題について話し合った。良かった点としては、相談者や来場者のニーズに合わせて、JICA 国際協力推進員と NGO 相談員がお互いに紹介し合えたとの報告があった。また、国際協力や NGO の認知度が低い地域において相談を受けるだけでなく広報の機会となったことも挙げられた。課題としては事前の広報や情報共有が挙がり、改善のために JICA 国際協力推進員と NGO 相談員制度の紹介文を共有することや、当日だけの参加ではなく事前打ち合わせの段階から参加する可能性について議論した。

・「今後の連携について」

上記の発表を受け、今後の連携についても具体的には話し合いを行った。特に JICA 国際協力推進員から NGO 相談員にどのように情報提供を行うのかという点について議論し、最終的には JICA 国際協力推進員と NGO 相談員間での ML を立ち上げることとなった。出張相談等のニーズがあれば、その ML に推進員から情報が発信され、NGO 相談員間で調整する予定である。また後述するとおり、年度当初に会合を持ち、年間計画と照らし合わせながら連携可能性を検討していくこととなった。

・「今後の意見交換会の運営」

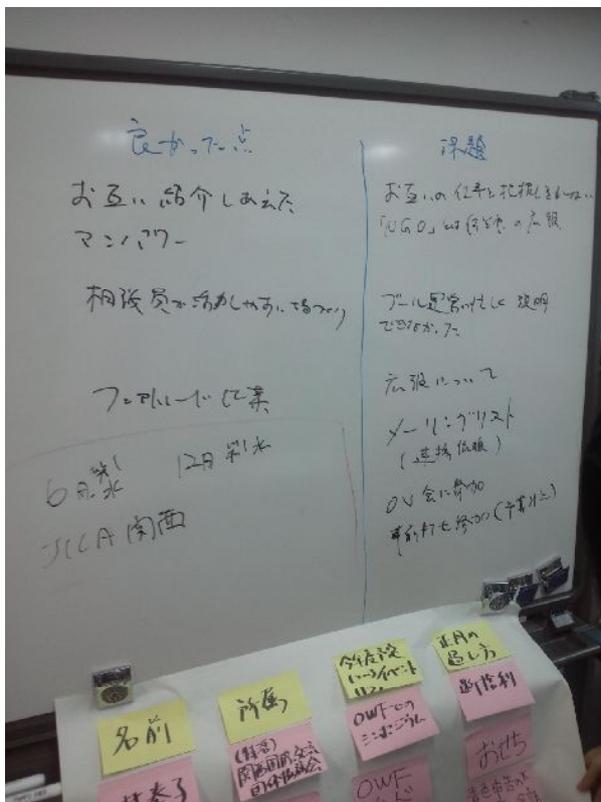
まず運営の頻度については、NGO 相談員連絡会議でも度々指摘されているように JICA 国際協力推進員の任期が切れるタイミングには後任の方との顔合わせを行った方が良いという事情や、また開催のタイミングについては滋賀や和歌山など遠方の推進員が居ることを考慮して JICA 関西で毎月行われている JICA 推進員会議に合わせて行うこととした。開催の時期は 6 月と 12 月に設定した。この理由は 6 月には JICA 推進側が年間スケジュールを作成し終えている時期であることから、NGO 相談員との連携についてのマッチングが可能であるからである。

上記のように今回は前回の意見交換会によって生まれた連携の評価を行い、それに基づき具体的な改善及び連絡体制の構築について有意義な議論を行うことができた。今後は本意見交換会の成果である「JICA 推進員と NGO 相談員間での ML の立ち上げ」、「6 月の意見交換会でのマッチング」、「連携を深めるための事前打ち合わせの参加」などを活用し、相談員活動に生かしていきたい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を 3 枚添付



「第二回 NGO 相談員、JICA 推進員との意見交換会」の様子①
連携事例の報告及び評価について話し合っているところ



「第二回 NGO 相談員、JICA 推進員との意見交換会」の様子②、③
②連携事例についてのディスカッションのまとめ
③自己紹介のポストイット

実施報告

1. 企画名:第3回 NGO-JICA 協議会

【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・その他 (TV 会議参加)】

2. 出張者氏名:池田 誠

3. 協力団体 / 依頼元団体名: NGO-JICA 協議会

4. 実施予定日時:平成24年12月19日(水) 14:00~17:00

5. 実施場所: JICA 北海道(札幌)(北海道札幌市)

6. 企画の概要及び対象者

NGO 相談員と JICA との連携は、相談員制度創設初期からの推進事項であり、近年の活動方針の重要な柱でもある。また、NGO-JICA 協議会では、平成22年度より「国内における NGO と JICA の連携」が主要議題のひとつとなっており、国際協力の底上げ及び地域に寄り添った国際協力の実現に向けて、NGO-JICA 及び NGO 同士の地域内での協働促進、地域間のネットワーク構築について TV 会議に参加し、議論に加わった。

7. 所感や効果

初めての TV 会議の参加であったが、なかなか発言のタイミングが難しく感じた。東京の進行役の方については、地方の TV 会議にも気を配っていただけたので、自己紹介や一部発言の機会を得ることができた。また、JICA 北海道からということで、市民参加協力課のスタッフとも会議を共有することができ、意味のあるものとなった。今後は TV 会議のメリットを生かし、更に地域の情勢などを共有できるように、積極的に議論に加わりたいと感じた。

(財団法人 北海道国際交流センター (HIF))

実施報告

1. 企画名 : 多文化共生と NGO の役割りについて

【形態：相談対応サービス・講演・**セミナー**・**その他（ワークショップ）**】

2. 出張者氏名：池田 誠

3. 協力団体 / 依頼元団体名：(公財) 北海道国際交流・協力総合センター

4. 実施予定日時：平成 24 年 12 月 22 日（土） 09:30～12:00

5. 実施場所：(公財) 北海道国際交流・協力総合センター（北海道札幌市）

6. 企画の概要及び対象者

少子高齢化の時代に入り、若い労働力が不足する中で、介護、医療や水産加工など外国人労働力に頼らなくてはならない状況が必ず訪れる。そんな中で移民を受け入れる際に、国際経験豊かなNGOとの連携は欠かせないものとなる。NGO相談員として、全国の多文化共生に関わる事例も多く持っており、北海道地域としても、多文化共生という概念を知り、自分のものとしてゆく必要がある。多文化共生時代に突入した今、何をすべきなのかについてセミナーとワークショップ形式で対策を考えた。

7. 所感や効果

自治体職員をはじめ、NGO や一般市民など様々な分野の人に参加をしてもらい、お互いの活動の違いから自己紹介などをしてもらい、アイスブレイクを行った。今回のテーマである多文化共生についてはまだ理解が進んでいないところもあり、世界の情勢についての講義およびワークショップを通じて、理解を深めることができた。参加した人たちは、いずれも職場での中核を担う人たちでもあり、今後の広がりも感じるワークショップとなった。質疑応答も多く、当初の時間を 30 分ほど延ばして、NGO の役割などについて説明をした。

参加者：自治体職員、NGO、学生、国際交流団体など 18 名

◆ 写真（1 枚以上添付）



外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

(団体名)特定非営利活動法人名古屋 NGO センター

(NGO相談員氏名) 門田 一美

NGO相談員による出張サービス実施報告書

11月27日付貴信にてご承認いただきました、NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 国際協力カレッジ 2012～国際協力を学び、行動するきっかけをつかもう！～

【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他()】

2. 出張者氏名 : (特活)名古屋NGOセンター 門田一美

3. 催しの概況:

実施日 2012年12月8日(土) 10時00分～17時00分

場 所 JICA 中部 なごや地球ひろば(名古屋市中村区)

対象者 学生、社会人など約100名

概 要 国際協力分野でボランティアやインターンをしたい人と、ボランティアやインターンを募集中の21の国際協力団体とのマッチングを行う「ボランティア・インターン マッチング展」への相談ブース出展を行った。ブースでは、NGOへの就職を考えているがどうしたらよいか、特技を生かしてボランティアをしたいといった相談が多く寄せられた。

4. 実施内容:



●主な相談内容は以下のとおり。

- ・ 将来 NGO で働きたいと思っているが、東海地方では難しいか。給与や求人タイミングなども教えてほしい。
- ・ 現在大学4年生で就職が決まったが、今からのタイミングでインターンができる NGO はあるか。仕事内容についても教えてほしい。
- ・ 現在大学3年生。留学から帰ってきたが、英語を使って引き続き経験を積める NGO を探している。

20代～30代を中心とした学生や社会人の若者が参加者の多くを占めた。NGOでボランティアしたい、将来NGOで働きたい、青年海外協力隊から帰国したが、国際協力に引き続き関わりたい、などの多様な相談が寄せられたが、特に地元で関わりたいという方が大半のため、加盟団体を中心とした東海地域のNGOスタッフの情報など具体的に伝えるように心がけた。

平成 25 年 1 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名：「国際交流市民ボランティア入門講座」

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名：林知美

2. 依頼元／主催等団体名：まつやま国際交流センター

3. 実施日時：平成 24 年 12 月 22 日（土）13 時 00 分～16 時 30 分

4. 実施場所：コムズ 4 階 視聴覚室

（愛媛県松山市三番町 6 丁目 4-20）

5. 実施概要：

「国際交流市民ボランティア入門講座」は、まつやま国際交流センターが開催している 2 回連続の講座で「国際交流に関わる活動をしたいけど、どうしたらいいの？」などボランティアの第一歩を踏み出すきっかけづくりとなることを目的としている。第 1 回は講演とディスカッション、第 2 回は「国際交流活動ガイダンス」と題して、松山市内・近辺で活動する国際交流・協力団体の活動紹介を行った。国際協力・交流活動に興味を持つ方からの相談が多く、当団体の経験を活かした個別対応をするとともに、講座に出席している他団体と連携して相談に対応した。

アフリカやフェアトレードに興味を持つ人、国内ボランティアについて、さまざまな質問・相談があり、それぞれのニーズに合わせた対応を行った。以下は当日行った相談対応の内容である。

- ① 学生・女性：国内でできる国際協力ボランティア内容について、自分にどのような活動ができるのかわからないので教えてほしいと相談があり、当団体の活動紹介、四国を拠点に活動する国際協力団体のボランティア参加の方法を紹介した。当団体のボランティアを希望されたので登録した。
- ② 社会人・男性：四国内で国際協力活動を実施している団体や活動地域について教えてほしいと相談があり、四国内で活動する団体を当団体が作成した冊子を見せながら情報提供した。また、ESD の取組みについて情報提供依頼があったため、当日持参した資料を提供した。

- ③ 主婦・女性：フェアトレードについて以前から興味があったが、具体的にどのような取組みをしているのか教えてほしいと相談があり、フェアトレードについての説明、愛媛県内、全国でのフェアトレードの取組みや取扱い店舗、商品について紹介した。



以上

2012（平成 24）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 奥谷充代

1. 企画名：京都市市民活動総合センター 相談の受け手研修

【形態：相談対応サービス・講演・**セミナー**・その他（ ）】

実施日時：平成 24（2012）年 12 月 14 日（金）14 時 00 分～16 時 30 分

場所：京都市市民活動総合センター

出張者氏名：奥谷充代

2. 実施内容：

相談事業に従事する京都市内の NGO/NPO スタッフを対象とした、相談対応のスキルアップをめざす研修で講師を務めた（全 2 回の内、当会への依頼は第 1 回のみ）。

第 1 回テーマは、「相談の内容をいかに残し、活用するか？」。

最初に、NGO 相談員制度の詳細や具体的な活用方法について説明した。その後、相談対応の内容をスタッフ間で共有・分析し、今後の事業に活かすために必要な対応する姿勢、記録・共有、分析、事業や提案へのフィードバック、報告等について、当会の NGO 相談員としての経験からポイントをお話した。

後半は、3 グループに分かれてグループディスカッションを行い、最後に知見を共有した。

※参考：第 2 回テーマ「相談を聴く技術について（傾聴）」



3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：10 名

4. 所感及び効果等：

当会における、「相談事業」の位置付け、実際に使用している記録用の所定の書式やデータベース、マニュアルを紹介し、どのように統計して分析しているか、事業に役立っているかを具体的に説明した。

参加者からは、「マニュアル資料が参考になった」、「集計した数値を広報活動につなげる考えが今までなかった。さっそく活用したい」といった反応があった。また、相談が主事業となる団体では、相談につながる要因やタイミングを分析し、社会に発信していくことの重要性を再認識したとの感想が寄せられた。終了後は、「今後どのようにしてこの認識を団体内で共有していくか」という新たな課題について、団体を超え、参加者同士で意見交換し合う姿も見られた。

参加者は日常、市民等からさまざまな相談に対応している方々なので、特に、国際協力分野での問い合わせについては、今後「NGO 相談員」制度を活用するよう勧め、同制度の周知に努めた。人脈形成に役立ち、その後、参加者の一人に当会を紹介されたという大学院生から、「京都の国際協力 NGO でボランティアをしたい。紹介して欲しい」旨の問い合わせがあった。

以上

平成 25 年 1 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(特活) 日本国際ボランティアセンター (JVC)

NGO 相談員出張サービス報告
2012 年度第 3 回 NGO - JICA 協議会

NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告いたします。

1. 企画名 : 2012 年度第 3 回 NGO - JICA 協議会

【形態 : 相談対応サービス・講演・セミナー・その他 (協議会)】

2. 出張者氏名 : 広瀬 哲子 (広報担当)

3. 依頼元/主催等団体名 : NGO - JICA 協議会

4. 実施日時 : 平成 24 年 12 月 19 日 (水) 14 時 00 分~17 時 10 分

休憩 10 分、実質業務時間 3 時間

5. 実施場所 : JICA 東京 (東京都渋谷区)

6. 実施概要 :

① 参加者および参加人数 :

JICA 関係者・NGO 関係者 計約 50 名

② 企画内容・目的 :

「NGO-JICA 協議会」は JICA と NGO による広報・啓発活動、資金運用等、主に国内課題の協議を行う場である。今回の協議会の議題である「国内における NGO と JICA の連携」「JICA ボランティアと NGO との連携」にて、NGO 相談員制度を活用しての JICA との連携事例を共有するために参加した。

③ 相談員業務内容 :

国内数地域の JICA ボランティア募集説明会において、NGO 相談員として参加者の相談に対応した事例を報告した。JICA ボランティア帰国後のキャリアとして、また協力隊にとどまらない国際協力の選択肢として NGO の活動を紹介することで、国際協力を担う人材の裾野を広げることにつながるとの期待を述べた。

④ 所感 :

- ・この会議には全国各地の JICA 職員もテレビ会議で参加していたため、同様の取り組みが各地に広がることを期待する。
- ・「“連携のための連携” にせず目的と成果の分析が必要」との声が NGO と JICA の双方からあり、同感した。JVC が行った JICA ボランティア説明会での NGO 相談員活動についても、改めて成果と課題を振り返っていく。

8. 交通費概算

(1) 交通費概算 : 往復 560 円

(2) 経路 : JR 秋葉原駅-新宿乗換-京王新線幡ヶ谷駅 往復 560 円

(3) 開催場所までの距離 : 約 12 km

9. 宿泊 : 無

以上

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

認定NPO法人 IVY
(NGO相談員氏名) 安達 三千代

NGO 相談員による出張サービス実施報告

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

1. 企画名:【形態:セミナー】 やまがた地域づくりカレッジ研修会
2. 出張者氏名:安達三千代
3. 依頼元団体名:(特活)山形の公益活動を応援する会・アミル
4. 実施日時:平成24年12月16日(日)13:15~15:30
5. 実施場所: さくらんぼタントクルセンター 〒999-3796 山形県東根市中央一丁目5番1号
6. 実施の概要及び対象者
実施概要: 地域づくり活動の更なる活性化のために、2日間にかけてやまがた地域づくりカレッジ研修会が開催された。当団体は2日目の午後の「活動資金をつくる～寄附を受けて活動のばす&認定NPO法人とは」という分科会で、事例発表と質疑応答を行った。
対象:山形県内の地域づくり活動団体(含むNPO)および活動者、行政関係、企業、学生、県民等10名
7. 内容:
 - 1) IVYはどうして認定NPO法人を取ったのか。
IVYは2008年6月に1回目の認定を取り、2010年5月までの2年間で認定期間だった。その間法律が改正されたため、2010年6月に取った2回目の認定では、2015年5月末まで5年間認定期間が延長された。取ろうと思った理由は、収入の自己資金比率が21%と低かったため。大口寄付者からも寄付金控除制度の要請があり、90年代から関心を持っていた。
 - 2) 認定の取り方
寄附金2割以上と思うと難しいと思うかもしれないが、寄附金の他、賛助会員の会費、助成金等の収入も含めた割合が収入全体の2割以上であれば大丈夫だということがあまり知られていない。
 - 3) 審査では
複式簿記による帳簿を整備しておくことが一番肝要。
 - 4) 認定を取った後の障害
山形県社会貢献基金への寄附と認定NPO法人が競合している。特に企業からの寄附の大半が全額損金算入できる貢献基金に持っていかれてしまっている。
 - 5) 認定を生かすためには
山形県内で認定を取るなら、県外特に首都圏の企業からの寄附を集めようとしないと、取っても仕方がない。
 - 6) 企業とNPOのパートナーシップ
企業のNPO化、NPOの企業化が進んでいる。企業はスピードが速いので、NPOもそれを受け止める体制が必要。

所感:実施日は、衆議院選挙投票日と重なり、参加者は少なかったが、20部用意した資料がすべてなくなっていたので、資料は欠席者やNPO等にも後日配られたのではないかと思います。また、山形県が設けているNPO向けの基金と認定NPO制度の競合について、問題提起させていただく機会をいただけたことはよかったと思います。発表後の質疑応答も活発でした。

参加者の感想:「幅広く活躍されていて感動しました。」(NPO、女性)



8. 交通費:

1) 交通費: 1200円

経路: JR奥羽本線 山形駅～さくらんぼ東根駅 往復 400円×2回=800円、東根市市民バス さくらんぼ東根駅～さくらんぼタントクルセンター南 往復 200円×2回=400円

2) 開催場所までの距離: 23km

3) 用務に(移動等を含む)に要した時間: 3時間15分(用務時間2時間15分、移動2時間)

9. 宿泊: なし

以上

国際フェスタ CHIBA における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

実施団体：開発教育協会／DEAR、難民を助ける会、横浜 NGO 連絡会

日時：2012 年 12 月 2 日（日）10：00～16：00

場所：千葉県青少年女性会館（千葉市稲毛区天台 6-5-2）

事業名：国際フェスタ CHIBA

共催団体：JICA 地球ひろば、(財)ちば国際コンベンションビューロー、千葉県ユニセフ協会

実施内容：相談対応（ブース出展）

来場者の中心は、国際協力に関心を持ち始めた入門者・初心者が多いという印象を受けた。他のブース出展団体の方は、千葉県内で活動する NGO や国際機関関連団体などで、こちらはシニア層や学生の割合が高かった。

相談件数は 20 件弱と、同種のイベントとしては多くはないが、来場者に加え他のブース出展者からも相談が複数あった。相談内容は多岐にわたった。主な内容は、国際協力や NGO について、シニアが参加できる NGO での活動、開発教育や国際理解教育のワークショップや教材、東北での支援活動やコーディネーションについて、マラリアについて、などであった。その他、NGO 相談員制度そのものに関する質問も散見された。またブースには国際協力や ODA、各種団体に関する配付資料を設置したが、これらを持ち帰る人が比較的多かった。

所感および効果：

事前に主催側から知らされていた通り、会場が市の中心部から少し離れていたことや、NGO 相談員のブースが会場内でも中心から離れた部屋にあって、来場者数全体がそれほど多くなかったのが残念であった。しかしその状況の中でも、相談員ブースには頻繁に人が訪れていた。

他のブース出展者からの相談では長時間を費やすことも多く、相談者が非常に熱心だった。その相談内容は手に入りづらい専門的な情報だけでなく、国際協力や開発教育、ボランティアなどの基本的な内容も多かった。またシニア層からは「NGO で国際協力に携われることを知る機会がこれまでにあまりなかった」とのコメントがあった。こうした反応から、インターネットなどで各種情報があふれている今日も、NGO 相談員がこうした地域密着型のイベントに出展して、さまざまな年齢層の人々やグループと直接交流しながら情報提供・発信することの必要性が感じられた。また NGO 相談員制度そのものについて説明もたびたび求められ、今後も継続して利用したいとの声もあり、制度の広報にもつながった。

今回は 3 団体の合同出張サービスだったが、お互いに各団体の特長を生かして補い合いながら相談対応ができ、また情報交換の機会にもなったことは、大変有意義だった。

